

令和7年度スポーツ産業の成長促進事業
「スポーツコンプレックス推進事業(多様な世代が集う交
流拠点としてのスタジアム・アリーナ選定事業等)」
最終報告書

2026年3月18日

< Confidential >

目次

1. 令和6年度多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ選定先の表彰式開催に関する支援業務	3
2. スタジアム・アリーナ改革の推進に関する相談窓口の運営業務	20
3. 多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ選定事業終了後の新たな選定制度の提案	26

本報告書は、貴庁と当社との間で締結された、2025年6月23日付け委託契約書に基づいて実施した業務をご報告するものです。内容の採否や使用方法については貴庁自らの責任で判断を行うものとします。本報告書に記載されている情報は、業務実施時点のものであり、公開情報を除き、貴庁又は対象者等から提出を受けた資料、また、その内容を基礎としております。これら入手した情報自体の妥当性・正確性については、当社側で責任を持ちません。

また、本報告書の一部(「非公開」明示部分)は貴庁内部での利用を前提に作成されておりますので、書面による事前の承諾なく全部または一部を第三者に開示されることのないようお願い申し上げます

1. 令和6年度多様な世代が集う交流拠点としての
スタジアム・アリーナ選定先の表彰式開催に
関する支援業務

1-1 表彰式の概要

1-1 表彰式の概要(1/2)

令和6年度「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」選定拠点表彰式を、昨年度の選定拠点である長崎スタジアムシティで実施しました。

開催概要

名称	令和6年度「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」選定拠点表彰式
日時	2025年8月28日(木)13:00～16:30(受付：12:00～)
会場	スタジアムシティホテル長崎4階 THE VITORIA
主催	スポーツ庁、経済産業省
受賞団体	エディオンピースウイング広島(広島市) 富山市総合体育館(富山市)
参加者	「スタジアム・アリーナ改革」に関連及び興味関心のある民間企業、官公庁、スポーツ団体(チームやリーグなど)等担当者 103人(事前申込み)
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・表彰式 ・受賞団体プレゼンテーション ・パネルディスカッション ・スタジアム・アリーナ視察ツアー ・ネットワーキング

1-1 表彰式の概要(2/2)

開催地へのアクセスを考慮し、参加者が日帰り参加可能なスケジュールで実施しました。

タイムスケジュール

時間(所要)	コンテンツ	備考(敬称略)
12:00	受付開始	<ul style="list-style-type: none"> 受付は会場内入り口に設置
13:00 (10分)	主催者挨拶	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ庁長官 室伏 広治 経済産業省商務・サービス審議官 南 亮
13:10 (10分)	表彰状及びトロフィー授与	<ul style="list-style-type: none"> トロフィー：スポーツ庁長官 室伏 広治 表彰状：経済産業省商務・サービス審議官 南 亮
13:20 (20分)	受賞団体プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> エディオンピースウイング広島：広島市スポーツ振興課 スタジアム調整担当課長 小林 一申 富山市総合体育館：富山市スポーツ健康課 課長代理 関野 大志郎
13:40 (20分)	集合写真撮影 / 休憩	<ul style="list-style-type: none"> 会場内にて、2パターンの写真撮影(①全員、②主催者 + 受賞団体)
14:00頃	選択制コンテンツ <ol style="list-style-type: none"> パネルディスカッション (所要：60分) スタジアム・アリーナ視察ツアー (所要：85分) 	<ul style="list-style-type: none"> 参加申込時に、参加希望コンテンツを確認 パネルディスカッションには、以下3名が登壇(50音順) <ul style="list-style-type: none"> 株式会社リージョナルクリエイション長崎 代表取締役社長 岩下 英樹 日本女子体育大学 教授 上林 功 響想舎-kyososha- 代表 信江 雅美 パネルディスカッションを60分で終え、15:00から転換とする
15:30 (1時間)	ネットワーキング	<ul style="list-style-type: none"> 16:30に一度中締め、17:00まで会場利用可とする
16:30	終了予定	

1-2 表彰式に関する支援業務の 実施事項及び主なスケジュール

1-2 表彰式に関する支援業務の実施事項及び主なスケジュール (1/2)

表彰式に関する必要な業務を洗い出し、計画に基づいて実施しました。

令和6年度表彰式に関する支援		
概要	実施事項・スケジュール	振り返り・今後の課題

支援業務の主な実施事項(1/2)

分類		実施業務
会場関連業務	候補地の検討支援	候補地の検討支援
	会場との連絡調整	各コンテンツの実施場所・レイアウト検討
		施設ツアーの調整
		施設プレゼンの調整
		必要備品・控室のリスト化及び調整
		利用料金・支払い方法の調整
		開催地来賓有無の確認
参加者関連業務	参加の呼びかけ	開催案内周知
		参加団体・人数・参加者取りまとめ
	参加者への連絡調整	当日案内周知
		プレゼンデータ作成依頼・取りまとめ
		授与者(表彰状・記念品)の確認

1-2 表彰式に関する支援業務の実施事項及び主なスケジュール (1/2)

表彰式に関する必要な業務を洗い出し、計画に基づいて実施しました。

令和6年度表彰式に関する支援		
概要	実施事項・スケジュール	振り返り・今後の課題

支援業務の主な実施事項(2/2)

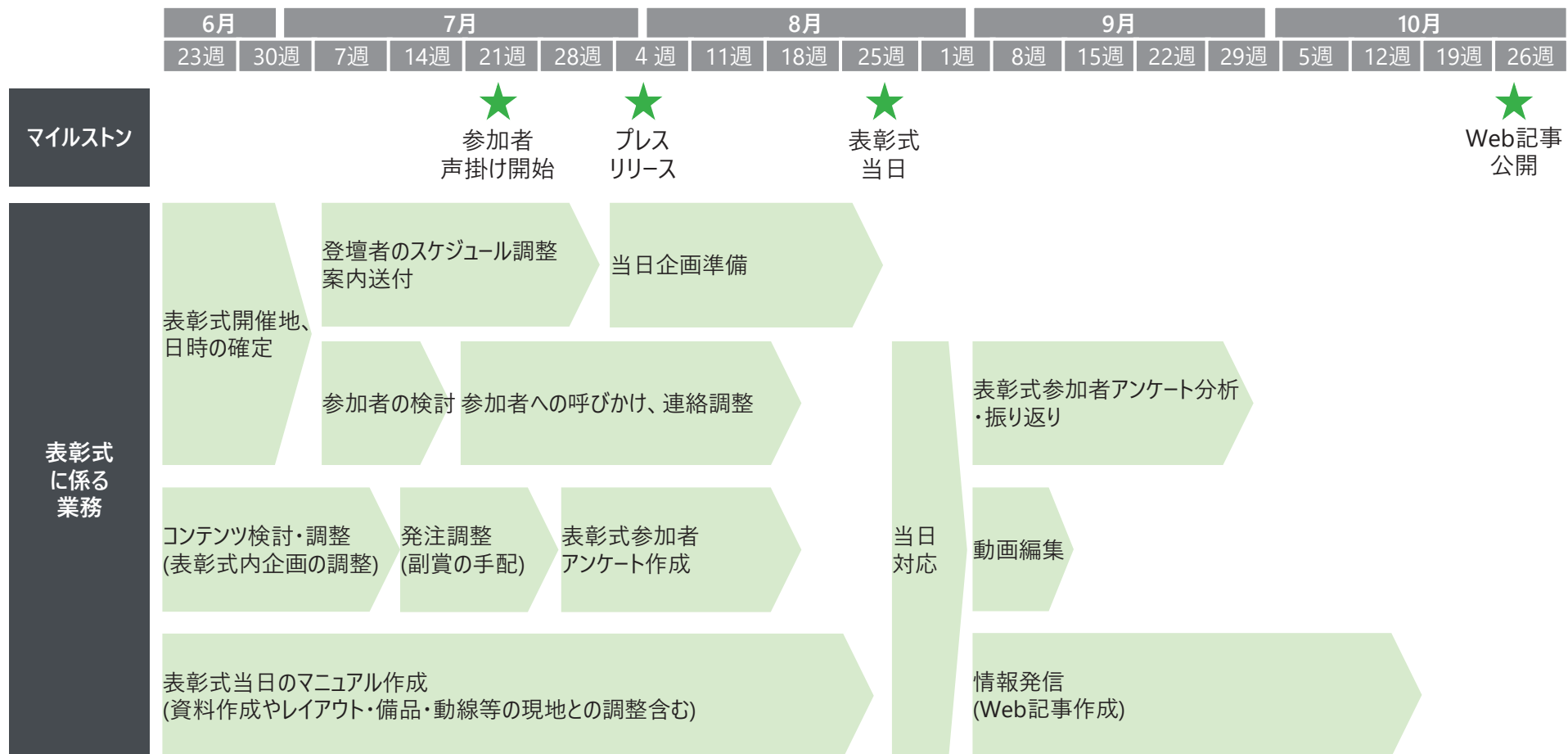
分類		実施業務
コンテンツ関連業務	コンテンツ検討・調整	内容検討・調整
表彰式関連業務	発注調整	表彰状及びトロフィー
		写真映像
	当日資料作成	次第、配布資料、ロジ、シナリオ・司会原稿
	当日対応	会場準備、リハーサル
司会、運営業務、レイアウト変更		
開催後業務	参加者アンケート	回答依頼、取りまとめ
		アンケートの取りまとめ
	メディア関連	情報発信の実施
		ショート動画の納品
		全編動画の納品
振り返り	検討・資料作成	

1-2 表彰式に関する支援業務の実施事項及び主なスケジュール (2/2)

事前にマイルストーンを設定し、計画的に業務を進めました。

令和6年度表彰式に関する支援		
概要	実施事項・スケジュール	振り返り・今後の課題

支援業務の主なスケジュール



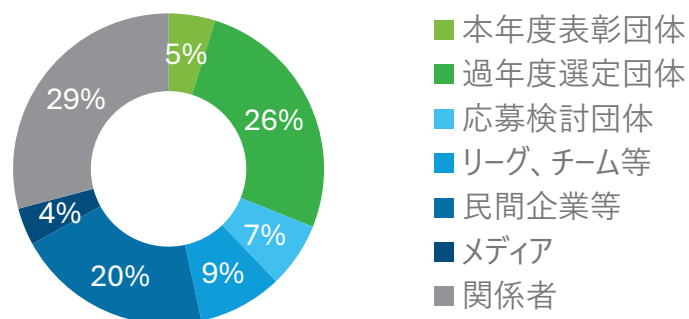
1-3 振り返りと今後の課題等の整理

1-3 振り返りと今後の課題等の整理(1/8)

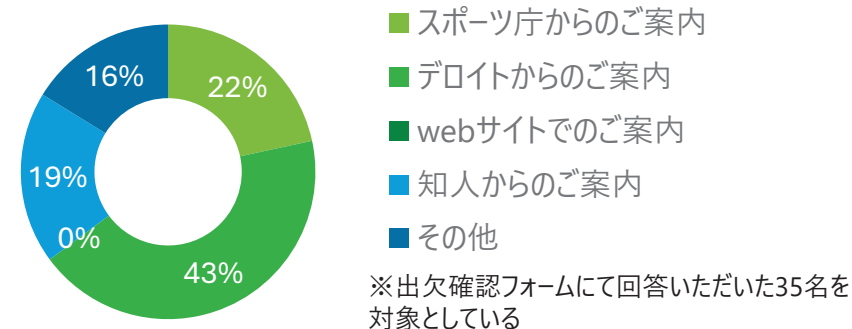
表彰式への参加が初めての参加者が、全体の約8割を占めました。

参加団体・参加者に関する情報サマリ

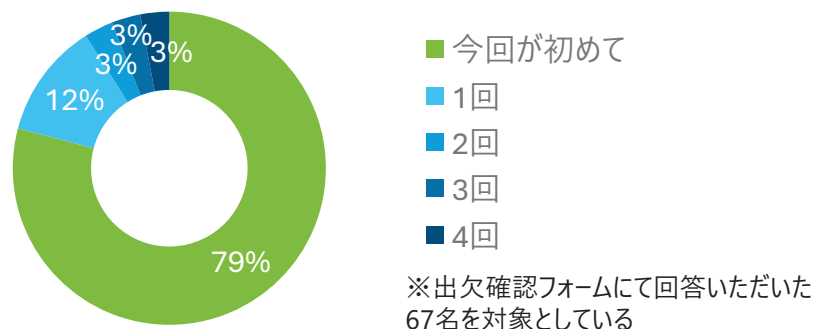
参加者の属性の内訳



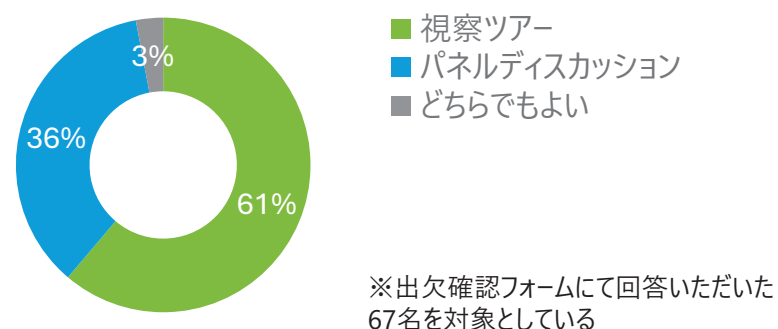
参加者の情報取得経路の内訳



参加者の表彰式への参加経験の内訳



参加者の参加希望コンテンツの内訳



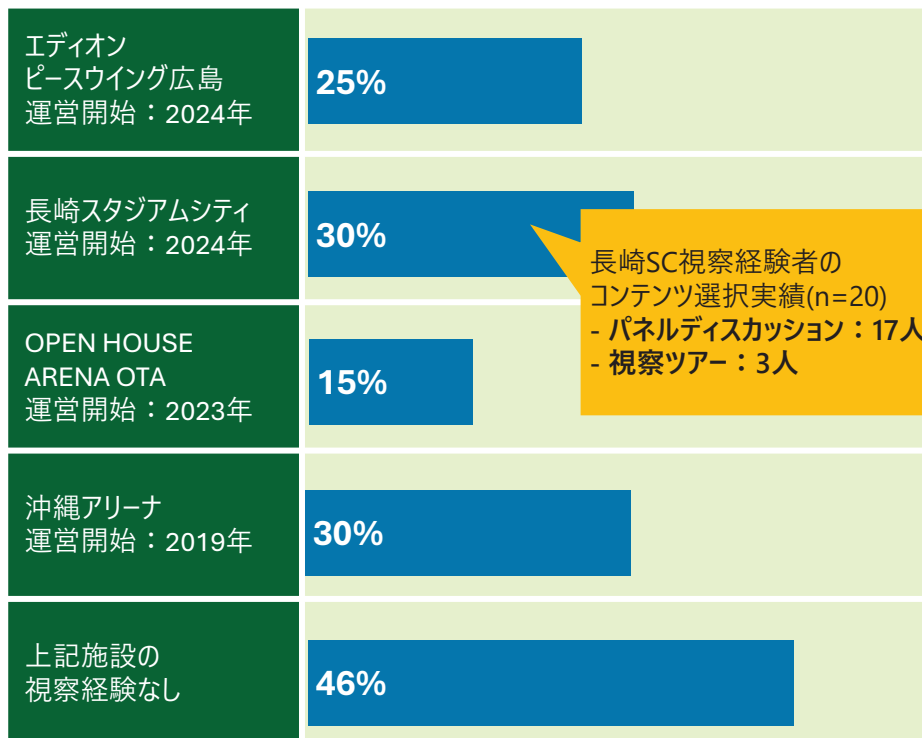
1-3 振り返りと今後の課題等の整理(2/8)

参加者の過半数は過年度の選定拠点の視察経験があり、約3割はスタジアムシティ長崎の視察経験がありました。スタジアム・アリーナ整備の各段階について関心を示していることが確認できました。

参加団体に関する情報サマリ

n=67

参加者における過去のスタジアム・アリーナ視察経験



参加者が有するスタジアム・アリーナに関して興味のあるテーマ及び課題に感じている点

1. 収益構造と採算性

スタジアム・アリーナの収益構造について
採算計画、興行の成立条件、オフシーズンでの運営

2. 資金調達とスキーム構築

地方の市民クラブ(年間売上20億以下)が民設民営でスタジアム整備をするために必要なこと(資金調達の方法、思考)
新スタジアム開発における資金調達、スキーム構築についての学び

3. 建設・運営に関する課題

建設費高騰問題、スタジアムの建築計画
天然芝の管理、防火・防災管理体制

4. イベント誘致とホスピタリティ

イベント誘致の手法、来場者へのホスピタリティ提供の状況
来場方法(車、公共交通機関など)

5. その他

パネルディスカッションを楽しみにしております。

1-3 振り返りと今後の課題等の整理(3/8)

全体満足度は4.65となり、昨年度より0.65ポイント上昇しました。また、ネットワーキング以外のプログラムでは、選定団体に比べてその他の団体の満足度が上回りました。

アンケート結果(サマリ)

選定：本年度表彰団体、過年度選定団体からの参加者(n=20)
その他：応募検討団体、その他からの参加者(n=31)

プログラム	満足度		コメント(抜粋)	示唆
	全体	カテゴリ別		
全体 (昨年度：4.0)	4.64	選定：4.60 その他： <u>4.69</u>	<ul style="list-style-type: none"> 【評価】先進的な取り組みを学べた 【評価】すべてのプログラムが有意義であった 【改善】一日のプログラムとしても良いと思った 【改善】改修予定のある自治体が広く参加できれば、参考になるのでは 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者にとって有意義なイベントにする上で、プログラムを充実、終日開催も検討の余地あり
受賞者 プレゼンテーション	4.31	選定：4.25 その他： <u>4.34</u>	<ul style="list-style-type: none"> 【評価】スタジアム建設に際する具体的な進め方や狙いが分かり、勉強になった 【改善】もう少しお話を聞ければもっと嬉しかった 【改善】駆け足気味だったため、時間にゆとりがあると良いと思う 	
パネルディスカッション	4.72	選定：4.00 その他： <u>4.81</u>	<ul style="list-style-type: none"> 【評価】ファシリテーターも上手に話を引き出していた。3者3様で興味深い組み合わせだった 【評価】その後のフォローディスカッションもふくめて、とても濃い内容を聞いた 【改善】その場で質疑応答の機会があってもよいかと思った 	<ul style="list-style-type: none"> 実務者・有識者の知識を得る場合は、特に今後スポン事業に取り組もうとする団体にとって、特に有意義なものとなる
スタジアム・アリーナ 視察ツアー	4.79	選定：4.78 その他： <u>4.81</u>	<ul style="list-style-type: none"> 【評価】細部まで視察できた 【評価】具体的な活用事例などを交えた詳細な説明や柔軟な質疑応答があり、勉強になった 【改善】ホテルの中も見かけた 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の参加者層には、To C向けではなく、詳細説明やその場での質疑応答ができる専門性のある内容にすると良い
ネットワーキング	4.10	選定： <u>4.35</u> その他：3.94	<ul style="list-style-type: none"> 【評価】他業種の方との交流の機会を持てたことが良かった 【評価】このような交流が新たなビジネスなどに繋がる 【改善】フリーすぎてやりづらかった 【改善】参加者がもっと交わる機会の提供があればよいと感じました 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の交流促進には、運営より参加者を意図的に動かすような仕掛けも必要である

1-3 振り返りと今後の課題等の整理(4/8)

視察ツアーに加えて、他のコンテンツを組み合わせることで、参加者の意欲を高められることが確認できます。

アンケート結果(サマリ)

選定：本年度表彰団体、過年度選定団体からの参加者(n=20)
その他：応募検討団体、その他からの参加者(n=31)

プログラム		満足度		コメント(抜粋)	示唆
		全体	カテゴリ別		
選択制コンテンツ (仕組み)		4.77	選定：4.70 その他： <u>4.81</u>	<ul style="list-style-type: none"> 【評価】自由に選べてよかった 【改善】両方参加したかったので、午前中に見学できるオプションもあると嬉しい 【改善】パネルディスカッションに関して録画提供などしていただけるとありがたい 【その他】どちらも魅力的で選択に迷った 	<ul style="list-style-type: none"> 今回実施したような有識者・実務者によるパネルディスカッションは、参加者に対して、視察ツアーに匹敵する有意義なコンテンツとなる
開催	場所	4.85	選定：4.80 その他： <u>4.88</u>	<ul style="list-style-type: none"> 【評価】視察に来たかった施設だったので良かった 【評価】新しいスタジアム、アリーナでできたことが良かったと思う 【評価】新施設でやるのは距離の問題では無く凄くよかった 【評価】アリーナ視察だけでは距離的に遠かったので、<u>交流会など+α</u>があって参加のモチベーションが上がった 	<ul style="list-style-type: none"> 最新施設での開催が、参加者の参加動機に繋がる 本施策において、関係者に見せたい/見るべき施設を、開催地選定の要因とすると良い
	時期	4.12	選定：3.95 その他： <u>4.22</u>	<ul style="list-style-type: none"> 【評価】繁忙期ではなく、ちょうどよかった 【評価】バスはオフシーズンのため助かる 【評価】自治体であるため、秋から始まる次年度当初予算要求の参考となる 【評価】市議会等がない時期であり調整がしやすかった 【改善】スタジアムツアーをするには<u>少し暑い</u>時期だった 【その他】特にこだわりはない 	

1-3 振り返りと今後の課題等の整理(5/8)

表彰式については、事前に2件(延べ11媒体)、事後に3件(延べ6媒体)の報道がありました。地元メディアによる報道も、Webメディアを通じて全国へ広く発信されました。

メディア掲載実績

時期	カテゴリ	タイトル	媒体	公開日	引用
事前	Web メディア	8月28日、長崎スタジアムシティで開催！令和6年度『多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ』選定拠点表彰式	PR Times (スポーツ庁)	8/5	9媒体 (朝日新聞デジタル、産経 ニュース など)
	Web メディア	長崎スタジアムシティにて、多世代交流へ向けた表彰式が開催	サードニュース	8/5	
事後	テレビ	地域の中核となる全国のスタジアムなどを表彰 2023年選定の長崎スタジアムシティを会場に	テレビ長崎	8/29	3媒体 (FNNプライムオンライン、 Yahooニュース、 dmenuニュース)
	新聞	「多様な世代の拠点」 富山市体育館選定で表彰式	北國新聞	8/30	
	Web メディア	圧巻の存在感！室伏広治長官が語るスタジアム改革 と地域交流の未来	dmenuニュース	8/30	

1-3 振り返りと今後の課題等の整理(6/8)

複数のチャンネルやプラットフォームを活用し、参加者やメディアへ積極的に呼びかけた結果、参加団体数が増加しました。

振り返り

○：良い △：改善余地あり ×：要改善

分類	事前検討論点	実施事項	結果
集客	<ul style="list-style-type: none"> 複数チャンネルから表彰式の案内をすることで参加者の増加が見込めるのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ庁からの声掛け <ul style="list-style-type: none"> - スポーツリーグ - 各省庁 弊社からの声掛け(メール、電話、FAX、問い合わせフォーム) <ul style="list-style-type: none"> - 過年度選定団体 - スタジアム・アリーナ - スポーツチーム(Jリーグ、Bリーグ) - 民間企業 	<ul style="list-style-type: none"> 40団体の参加となった(昨年度：29団体) 弊社からの声掛け先252団体のうち、参加は34団体であった(参加率：13.5%) 当初KPI：150人の集客には及ばなかった。
メディア	<ul style="list-style-type: none"> 複数のプラットフォームにて、メディアに対する表彰式開催の告知を実施することで、報道につながるのでは？(報道を通じた、事業周知及びムーブメント創出を期待) 	<ul style="list-style-type: none"> 事前リリース <ul style="list-style-type: none"> - PR Times(スポーツ庁) - 各記者クラブ - 長崎市市政記者クラブ 当日対応 <ul style="list-style-type: none"> - メディアへの情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 事前報道：2件(掲載：延べ11媒体) 取材申請：3社(読売新聞、テレビ長崎、長崎新聞) 事後報道：3件(掲載：延べ6媒体) 例：8/29 ニュース放送(テレビ長崎)
集合写真	<ul style="list-style-type: none"> 集合写真は広報や参加者のコミュニティ形成、イベントの一体感をもたらすことができるのでは？(昨年度報告書においても記載あり) 	<ul style="list-style-type: none"> 例年実施している主催者および表彰団体の写真撮影に加えて、表彰式会場にて参加者全員での集合写真を撮影 	<ul style="list-style-type: none"> 撮影した集合写真を、表彰式の開催報告や広報素材として活用できた

1-3 振り返りと今後の課題等の整理(7/8)

参加者が自らコンテンツを選べる方式を採用したことで、参加者満足度の向上に寄与しました。

振り返り

○：良い △：改善余地あり ×：要改善

分類	事前検討論点	実施事項	結果
選択制 コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> 選択制にすることで、限られた時間の中で効果的なプログラムを実施、また参加者も自分の興味に合わせて選べるため満足度が上がるのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> パネルディスカッション、スタジアム・アリーナ視察ツアーを選択制コンテンツとして実施 出欠確認フォームにて、参加希望コンテンツを確認 	<ul style="list-style-type: none"> 選択制コンテンツの仕組みに対する満足度は「4.76」と高かった 2つのコンテンツへの参加を希望する声も見受けられた 今回の参加者のうち、長崎スタジアムシティの視察経験がある20人のうち、17人がパネルディスカッションを選択していた
	<ul style="list-style-type: none"> 選択制にすることにより、参加者に偏りが出るのではないかな？ 	<ul style="list-style-type: none"> 参加の声掛け時に、過去に視察ツアー参加経験のある方は、パネルディスカッションへの参加を推奨する旨を記載 人数調整を行えるよう、下記2つの施策を実施 <ul style="list-style-type: none"> 過年度選定拠点の視察経験有無をアンケートにて確認 参加希望コンテンツの選択肢に「どちらでもよい」を追加 	<ul style="list-style-type: none"> 視察ツアーとパネルディスカッション希望者の比率は「1:2」となった 参加希望コンテンツにて「どちらでもよい」を選択する人は2名のみであった 出欠確認フォームにて、欠席理由に「視察経験済み」のコメントも1件あった

1-3 振り返りと今後の課題等の整理(8/8)

パネルディスカッションとネットワーキングはいずれも高い満足度を得た一方、運営のさらなる円滑化に向けた改善の余地があると考えられます。

振り返り

○：良い △：改善余地あり ×：要改善

分類	事前検討論点	実施事項	結果
パネルディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> パネルディスカッション後に交流時間を設けることで、参加者が登壇者に直接質問し、さらにテーマへの理解を深めることができるのではないか？ 	<ul style="list-style-type: none"> パネルディスカッション終了後、ホワイエで登壇者と参加者が自由に質疑応答・意見交換できる交流時間を設けた 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者と登壇者の間で、意見交換や質疑応答が活発に行われ、参加者アンケートにおいても好評であった 実施場所への誘導を行う際に、休憩に入る参加者も一定数いた 実施場所には、その他コンテンツの参加者もあり、会話の音が聞こえずらい場面もあった
ネットワーキング	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーキング時には、参加者の情報収集や交流の活発化に向けた取り組みを行う必要があるのではないか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 表彰団体、スポーツ庁・経済産業省がそれぞれブースを設置 ネットワーキング開始時の配置を指定し、各テーブルの配置をスクリーンに投影 参加者の名札を準備。当日配布資料として、参加団体一覧を配布 アテンドとして会場内にスタッフを配置し、交流促進の支援を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの参加者が名簿を参照したり、表彰団体のブースに訪れたりして、交流していた 過年度・本年度選定団体(4.35)に比べ、その他参加者(3.97)の満足度が低い結果となった 改善に向けて、「フリーすぎた」「参加者をもっと交流できる仕組みがあるとよい」との声があった

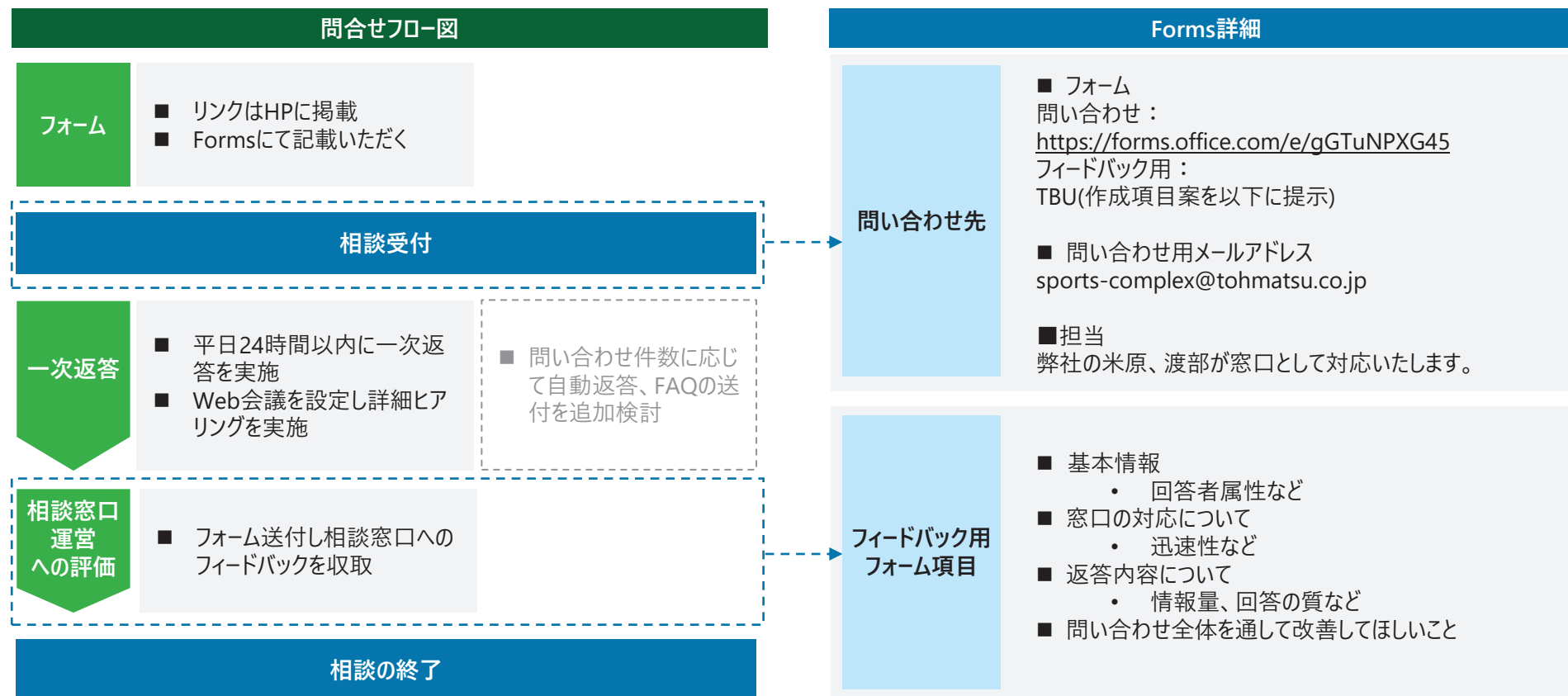
2. スタジアム・アリーナ改革の推進に関する 相談窓口の運営業務

2-1 相談窓口について

2-1 相談窓口について(1/2)

問い合わせフローを整理した上で、相談窓口を開設しました。

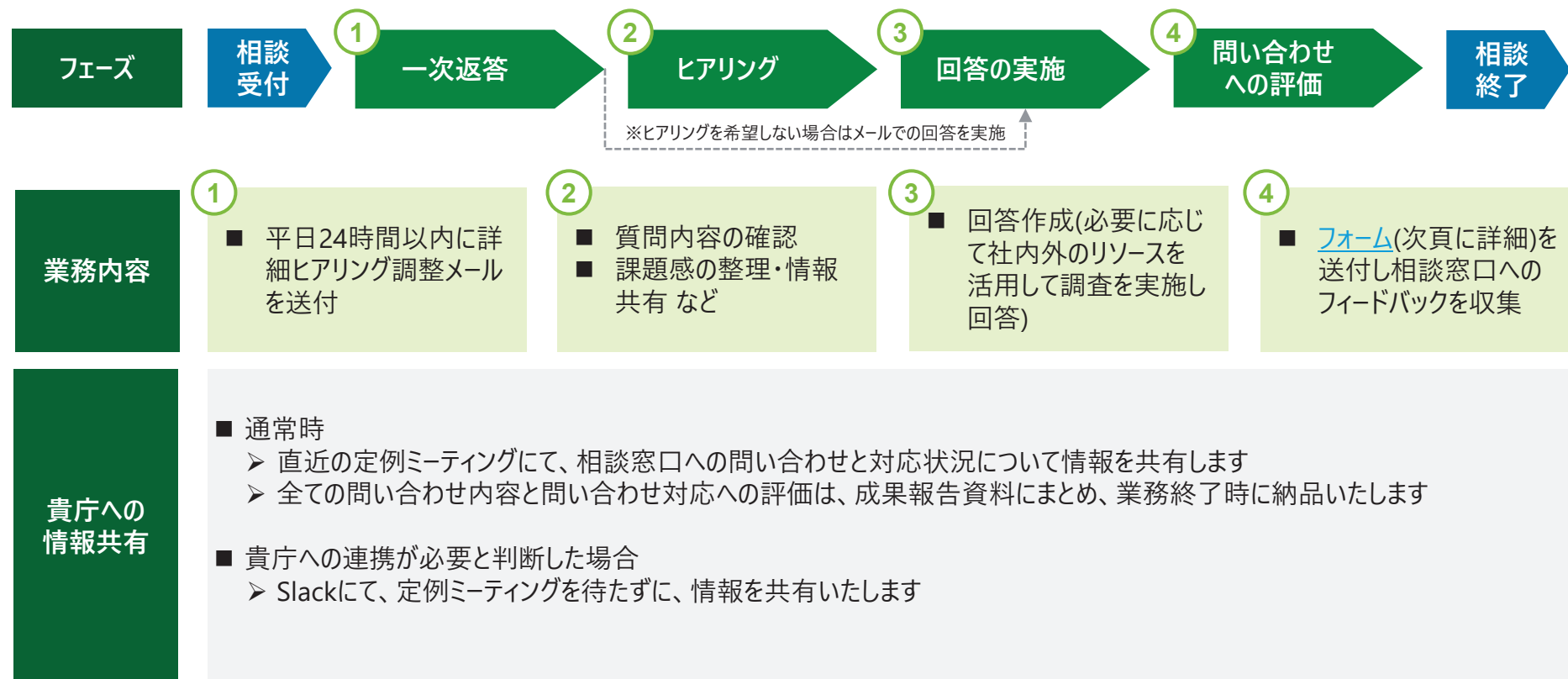
実施概要>問い合わせフロー



2-1 相談窓口について(2/2)

各フローの業務内容を整理し、貴庁への報告タイミングについても事前に決定いたしました。

実施概要>相談窓口の運営と貴庁への情報共有のフロー



2-2 令和7年度の運営実績

2-2 令和7年度の運営実績

構想段階の事業者に対しては、相談窓口は有効であり、中長期的な支援機能が求められます。効果的な支援のためにはスタジアム・アリーナ領域の実務経験と専門家ネットワークが鍵となります。

アンケート結果取りまとめ・振り返り

定量評価(n=5)

項目	回答
対応の人属性	■ 迅速だった(5)
回答内容の情報量	■ 十分だった(4) ■ 普通(1)
対応の丁寧さ	■ 丁寧だった(5)
回答内容の質	■ 満足した(3) ■ 普通(2)

定性評価

1. 改善してほしい点

・公開情報以外にもスポ庁の調査の中で知り得た情報をフィードバックしていただけるとありがたい。自治体同士で確認をすれば教えていただける情報もあるが、聞く方も聞かれる方もかなり負担が大きいため、自治体にしか情報を渡さない前提で、事務局が情報を持っていたけるといいのではと思った。

2. その他

・改善は特にありませんが、相談内容の解決が難しいという事がよく理解できました。ありがとうございました。
・追加でお願いした内容(要求水準書)についても丁寧に回答していただき、ありがとうございました。

振り返り

- 構想段階の事業主体にとって、ガイドブックや事例集の情報だけでは、プロジェクト進行するために十分な理解が出来ず、**個別で相談が行える相談窓口は有効な施策である**
- 相談内容に対して本事業範囲で回答できる内容にとどまらず、プロジェクト推進を中長期にわたり支援できるよう、**他施策へ接続する必要がある**
- 相談内容は実践的な内容が多く、対応者にはスタアリ関連プロジェクトにおいて**構想、建設、運営に関して実務経験があり、なおかつ、異なる専門性を有する有識者とそれぞれネットワークを有する担当者を配置することが必要**である

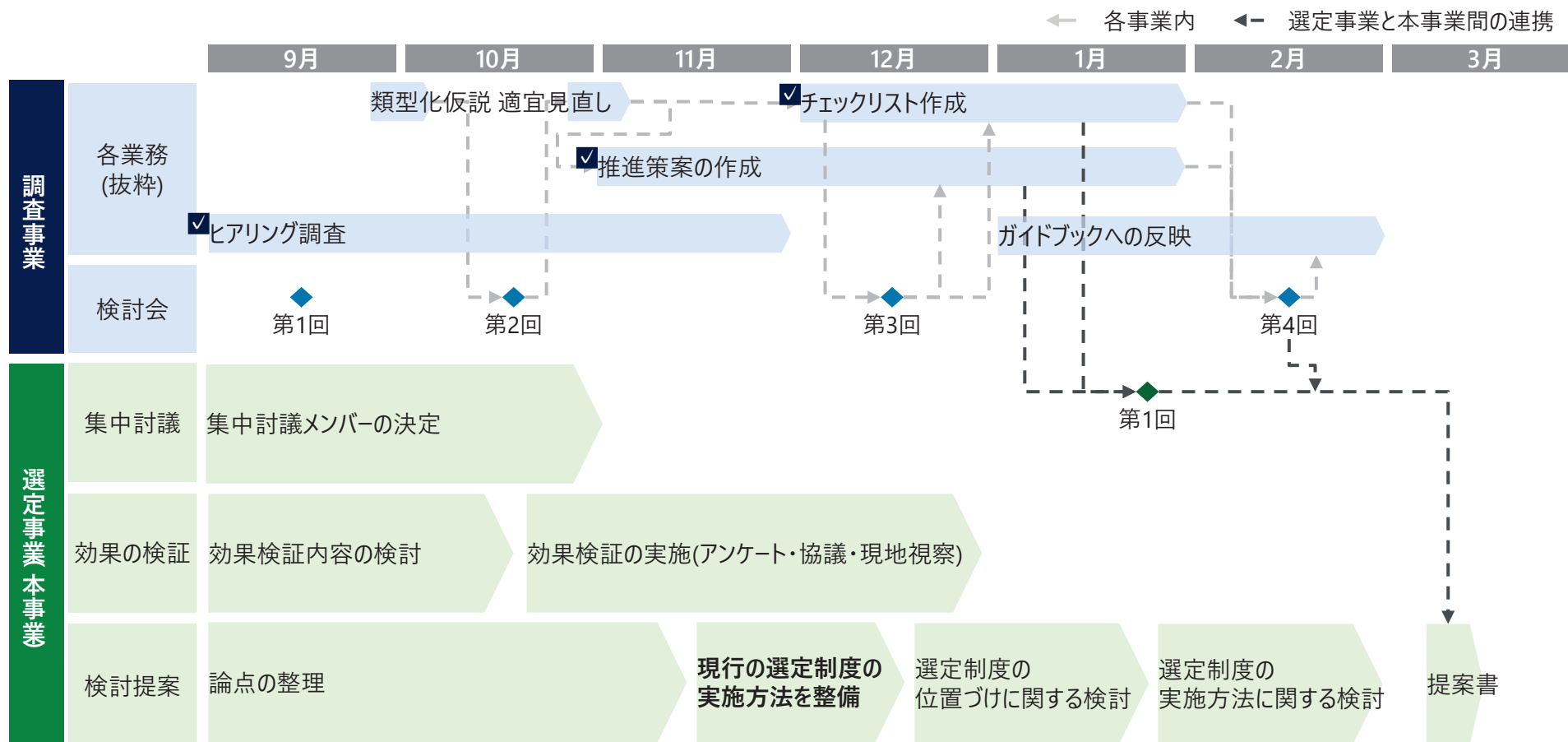
3. 多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ選定事業終了後の新たな選定制度の提案

3-1 新たな選定制度の提案

3-1 効果検証の実施

調査事業における検討内容を踏まえ、本事業の集中討議の方針及び新たな選定制度の提案書に反映しました。

スケジュールと調査事業との連携方針



3-2 集中討議

3-2 集中討議(1/2)

スポーツコンプレックス推進における要件や選定事業等に関する集中討議を対面で開催しました。

実施概要

非公表

アジェンダ

#	議題
1	はじめに
2	「スポーツコンプレックス」概念の整理
-	休憩
3	スポーツコンプレックス推進における要件の整理
4	スポコン推進施策の目的と選定事業の位置づけ
5	選定事業が対象とするスポーツコンプレックス
6	実施方法および企画内容に関する意見交換
7	振り返り

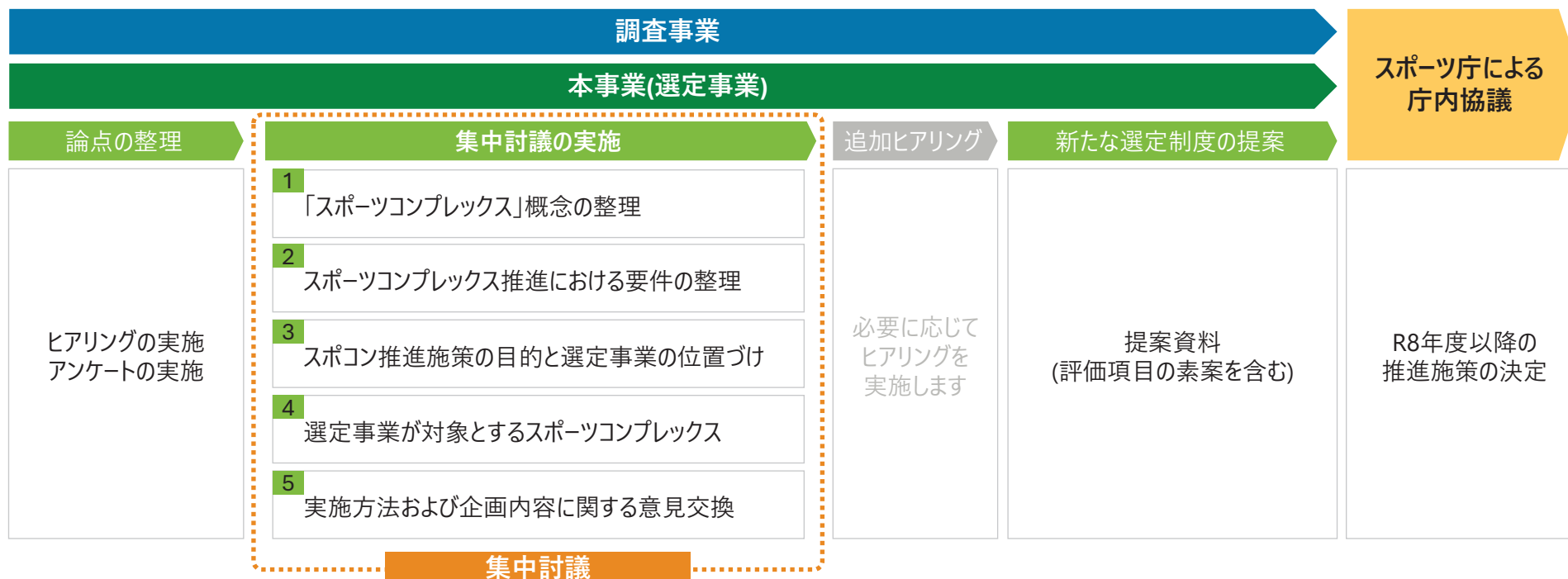
3-2 集中討議(2/2)

スポーツコンプレックス推進における要件や選定事業等に関する集中討議を対面で開催しました。

実施概要>集中討議の位置づけ

集中討議の 位置付け

- 多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ選定事業終了後の「新たな選定制度の提案」に向けた集中討議となります。集中討議の内容を参考に、事務局にて「新たな選定制度の提案」を取りまとめます。
- 「新たな選定制度の提案」は、直接的に来年度の選定事業の実施要項として採用されるものではなく、庁内協議のための検討材料となります。制度の決定ではなく、検討のための選択肢を提示することを目指します。



Appendix

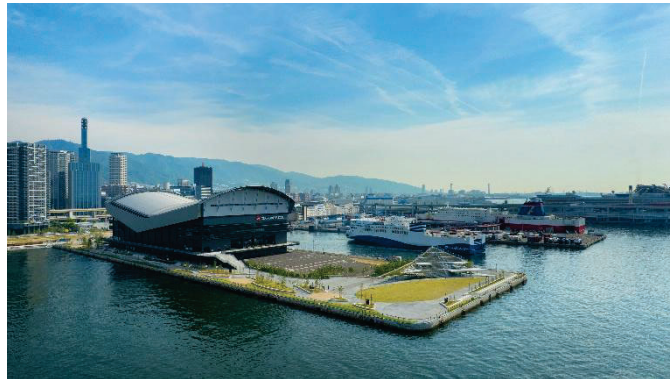
選定施設事例集

GLION ARENA KOBE(旧称：神戸アリーナ(仮称)) <評価ポイント>

※多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ選定事業において、選定の際特に評価されたポイントを記載しています。

【ポイント①】まちづくりの中核となるスタジアム・アリーナの実現

- **日本初270度海に囲まれた突堤に建つ水辺のアリーナ**は、神戸ウォーターフロントエリアの新たなランドマークとして、365日を通した賑わいづくりを目指し、**新たな魅力と活力ある都心・ウォーターフロントの創出に寄与**。
- 2024年2月に「港湾環境整備計画」として認定を受けたアリーナ周辺の緑地区域(エリア名称「TOTTEI PARK」)に建設される建物は、**アリーナと一体で運営**される。
- 全国で初めて「**港湾環境整備計画制度(みなと緑地PPP)**」を活用し、**収益施設の運営によって得られる収益の一部を公共整備や緑地の維持管理に還元**することで、地域経済の活性化や住民サービスの向上に寄与する。



施設外観イメージ

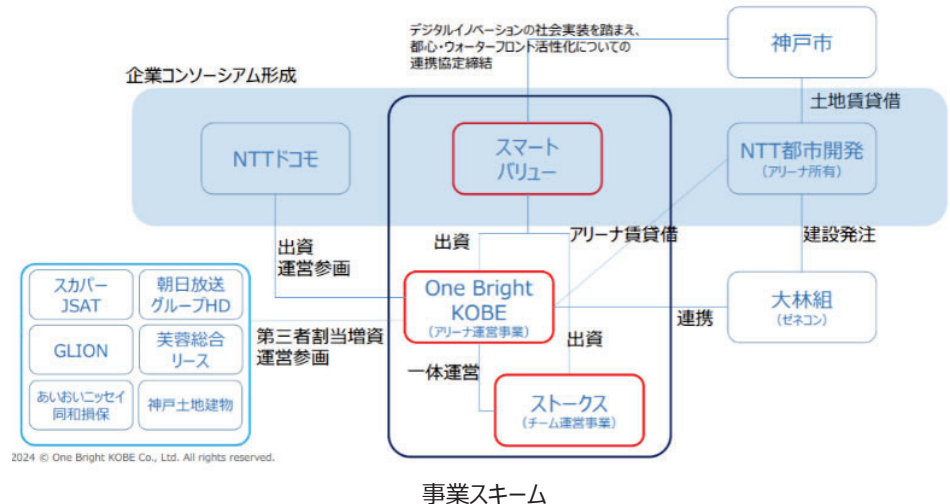
【ポイント②】IT・データの活用

- **アリーナを基点としたスマートシティモデルの推進**として、ハード、ソフト、デジタル、ソーシャルの4つがつながるSmartest Arenaをコンセプトに、人と人、人とまちがつながるコミュニティ共創事業「**Commons Tech KOBE**」を推進し、**蓄積データを用いたイベント開催に伴う回遊性向上策を実施**。
- 街中へのビーコンの設置及びTOTTEI KOBE公式アプリ活用により、**アリーナの訪問者データの収集や情報の発信、スタンプラリー、キャッシュレス決済などの機能を提供**。

お問合せ先	(株)One Bright KOBE (電話番号)0570-030-120 https://www.totteikobe.jp/
-------	--

【ポイント③】民間活力を活用した手法の採用

- クラウドサービスを軸に行政デジタル化やスマートシティ等を手掛ける(株)スマートバリューと(株)NTTドコモが運営し、NTT都市開発(株)が開発を担う**3社企業コンソーシアムによる、民設民営のランドマークプロジェクト**である。
- アリーナの運営は(株)スマートバリューと(株)NTTドコモの2社が出資して設立した(株)One Bright KOBEが行う。
- アリーナ運営を行う(株)One Bright KOBEとチーム運営を行う(株)ストークスが**一体運営を行うことで、より自由度の高い事業展開を実現**する。



【ポイント④】多様な利用方法や用途の実装

- **MICEや音楽興行での利用を想定し、コンクリート床を採用**している。また、多様な興行への対応や自主コンテンツの創造へチャレンジするため、ハイグレードスピーカーを常設し、**常設機材と持ち込み機材のハイブリッド**でコンサートを実施することができる。
- アリーナ内に11tトラック等の車両の乗り入れが可能な搬入口を備えているため、**機材等の運搬を効率化**できる。開業以来実施した興行は、ほとんどが撤収日なく作業を完了できており、興行主のコスト削減に寄与している。その結果、興行主から選ばれるアリーナとなり、**多様なイベントの開催が可能**となる。

三河安城交流拠点(アリーナ) (旧称：アイシンアリーナ (仮称)) <全体概要>

プロジェクトのポイント

- シーホース三河(株)が設立した建設募金団体が調達した資金を利用して、(株)アイシンの工場跡地にアリーナを建設後**安城市に寄贈(負担付き寄附)**。
- シーホース三河(株)が中心となって設立した三河アリーナ(株)がアリーナの運営を行う。企業・スポーツクラブ・自治体が互いにリスク・連携を取りながら、**アリーナを活用したまちづくり・賑わいづくりを行っていくプロジェクト**。

施設写真



施設外観イメージ



メインアリーナ内観イメージ



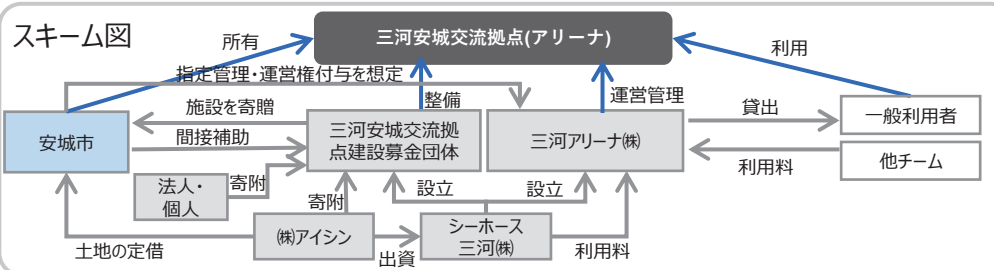
アリーナコンセプト

事業概要

事業手法	負担付き寄附(メインアリーナ)
事業主体	三河安城交流拠点建設募金団体、三河アリーナ(株)、シーホース三河(株)
所有者	土地：(株)アイシン 建物：安城市 ※整備後に市に寄贈
実施主体	整備：三河安城交流拠点建設募金団体 運営管理：三河アリーナ(株)

施設概要

所在地 / アクセス	愛知県安城市三河安城町 1-11-2 東海道新幹線三河安城駅、JR東海道線三河安城駅から徒歩3分			
面積	敷地	約30,000㎡	延床	約15,000㎡
構造	鉄筋コンクリート造4階建(一部木造、鉄骨造)			
観客席	約5,000席			
施工業者	(株)竹中工務店	設計	アイシン開発(株) (株)日建設計	
付帯施設	VIPルーム	有り(VIPルーム13室、ラウンジスペース完備)		
	飲食・物販	有り(増設可能なマルチユニット等)		
	その他	別棟でクラブハウス棟が付属 浴場、サブアリーナ、トレーニングルーム、クラブ事務所(シーホース三河・クインシーズ刈谷・三河アリーナ)等		
ホームチーム	シーホース三河(Bリーグ) クインシーズ刈谷(SVリーグ)			
スポーツ興行	・Bリーグ公式戦 年間35日程度 ・SVリーグ公式戦 年間22日程度			
防災機能	様々な救助活動や支援活動、物資の集配拠点機能、帰宅困難者の一時避難所機能等を持つ防災支援拠点等としての利用を協議検討中。			



事業期間	整備：2026年1月着工～2028年3月竣工(工期)約27か月 運営管理：2028年6月(予定)～			
整備費	非公開			
資金調達	・民間企業、個人による建設募金(国等に対する寄附を想定) ・中央省庁の補助金等を活用			
収支見込	収入	非公開	利用料金収入 非公開 その他収入 非公開 指定管理料 -	支出 非公開
行政の役割・支援	・メインアリーナ施設の保有/各種条例の制定等 ・予定地の用途変更/近隣街づくり連携等			

三河安城交流拠点(アリーナ) (旧称：アイシンアリーナ (仮称)) <評価ポイント>

※多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ選定事業において、選定の際特に評価されたポイントを記載しています。

【ポイント①】ステークホルダー確認と検討・連携体制の整備

- 安城市とシーホース三河(株)が地域活性化に関する**包括連携協定を締結**。
- 推進主体であるアイシングループが、安城市（企画部、都市整備部、市民生活部、生涯学習部等）やその他ステークホルダーの意見を反映する体制を構築。
- 施設設計、空間企画、飲食企画、IT等の**各分野の専門企業が加わった検討体制**となっている。
- シーホース三河(株)内にも、営業、興行、PR、販売、施設管理の**専門家を配置**し、検討を進めている。

【新ホームアリーナ建設】建設関係者会議

AGENDA	
1.ご挨拶	シーホース三河(株) 代表取締役社長 鈴木秀臣
2.建設計画について	シーホース三河(株)
3.アリーナと街づくり	①街づくりのネットワーク (株) 日建設計 ②B.LEAGUE×I-ハム5G (株) キャッチネットワーク
4.周辺街づくりとの連携について	①三河安城駅周辺のまちづくり×アリーナ 安城市 ②まちづくりと整合性をもつスポーツ施設整備 愛知学院大学 内藤先生
5.質疑応答	
6.参加者発言	

建設関係者会議のアジェンダ



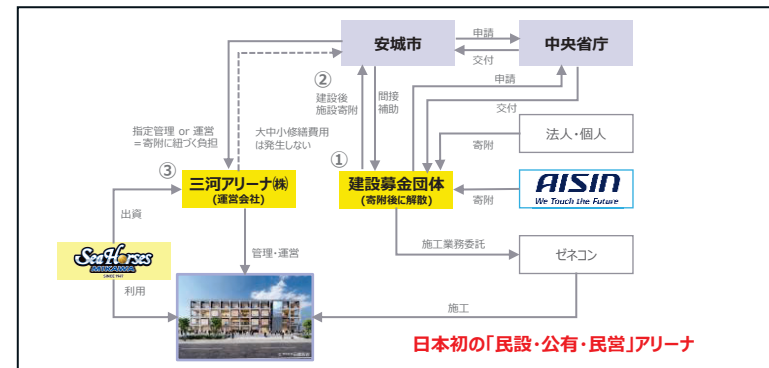
包括連携協定締結式の写真

【ポイント②】まちづくりの中核となるスタジアム・アリーナの実現

- アリーナを社会課題解決共創拠点とするイノベーションHUB構想があり、**「社会課題解決を目的とした複合公共施設、コンソーシアム」、「アリーナという実証フィールドを活用した社会課題解決の実験場」、「産官学連携による新規事業創出のプラットフォーム」**を基本コンセプトとして挙げている。
- 今後、地域のコンソーシアムがアリーナを「地域・行政まちづくり」「実証フィールド」の場として活用し、アリーナ運営会社がまちづくり法人として市に認定されることで、まちづくりにより一層寄与することを想定している。

【ポイント③】民間活力を活用した手法の採用

- 本施設は、日本初の**「民設、公有、民営」**のアリーナである。
- 公所有と民間運営の組み合わせ**により、**固定費を削減しつつ、「収益性の確保」と「運営の自由度」が両立**できている。
- シーホース三河(株)は(株)アイシンの完全子会社であり、(株)アイシンが**クラブ、アリーナ運営の両方に関与**している。



事業スキーム

【ポイント④】多様な利用方法や用途の実装

- 地域コミュニティの核として活用される**「マルチコンコース」**や**「多目的スペース」**を**駅からの賑わい軸周辺に配置する設計**となっている。
- 公共施設の体育館と民間所有の屋外空間が構造的に連携している。
- 周辺環境に対する開放性と将来拡張性**を両立する外装デザインが採用されている。



アリーナにおけるマルチコンコース、多目的スペースの配置



外装デザインイメージ

お問い合わせ先

三河アリーナ株式会社アリーナプロジェクト推進室（電話番号）0566-24-8537